



エンジンはなんと348の縦置きエンジンを308にスワップ。

Tuning Car 2017

WORK

唯一無二のオリジナルホイールで、愛車をカスタムする

ノーマル風にカスタムするのは、上級者の証。
走りを追求した308には、ホイールもセンターロックをチョイス。
この純正然としたセンターロックホイールを実現化したのは、「シオン」である。

文●西山嘉彦 写真●柳田由人
text by NISHIYAMA Yoshihiko photos by YANAGIDA Yoshito





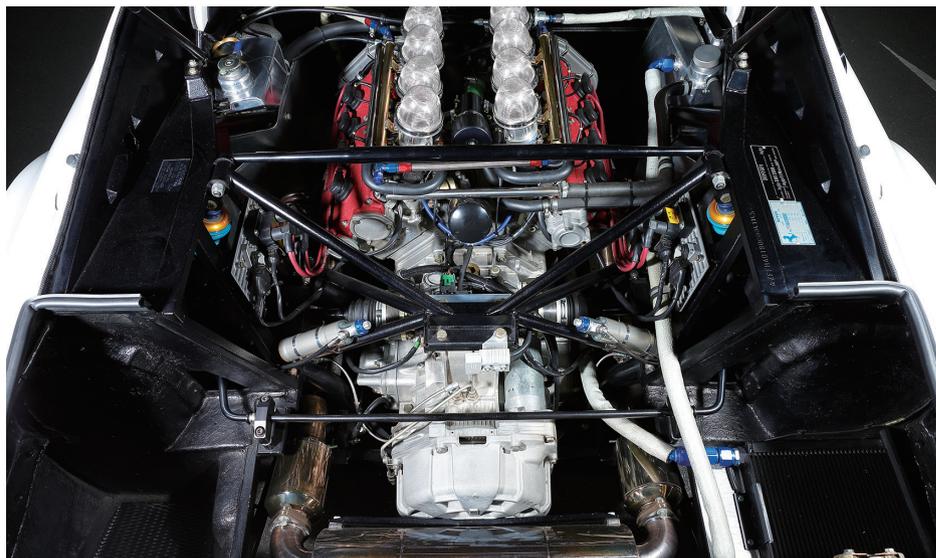
ワークのスペシャルオーダープログラム「シオン」によって実現化した、センターロックのホイール。



オリジナルの雰囲気は残しつつ、レーシーかつシンプルにまとめたインテリア。



ボディ補強のロールケージの組み方ひとつとっても、オーナーのこだわりが感じられる。



サスペンションはリザーブタンクを備えたものが装着されていた。エンジンサウンドは、308より格段に音色がいいのが特徴。



純白のフェラーリ308である。しかし、その佇む姿は、目の錯覚か、何かが違う。そう思った人は正しい。実はこの308、佇まいから普通ではないのだ。

前後のフェンダーをご覧頂くと、スリークな308と比べて、ふくよかなラインであることがご覧頂けるだろう。かといって、288GTOほどあからさまなボディラインでもない。前後フェンダーをオーバーフェンダー化しているのだ。

しかし、驚くのはそのエンジンルームを覗いてみたときだ。なんとエンジンが縦置きになっているのである。本来、308のエンジンは横置きに搭載されているものなのだ。ドイツ車のカスタムの世界では、エンジンをスワップするのは当たり前の話だ。モジュール化されたドイツ車は、同一の車種でも気筒数の違うエンジンラインアップを有するドイツ車の場合、エンジンスワップはそう難しいチューニングではない。しかし、それがフェラーリだというのだらう。それも横置きのエン

ジンを縦置きにする場合。

ここで紹介する308に搭載されるエンジンは、348のV8エンジンである。スワップに関しては、エンジン単体ではなく、トランスミッションや駆動系すべてが移植されている。見た目は308であるが、中身はほぼ348というのが、このフェラーリの実態なのだ。つまり、オーバーフェンダー化してあるのは、348のトレッドに合わせるためだったというわけだ。そして、すべが純正然としたスタイルの308を、よりそれらしく仕上げる大きな役割となっているのが、ホイールである。フェラーリ純正の5本スポークのようなデザインを踏襲しているのですが、気がつかないかもしれないが、実はセンターロックのホイールなのだ。これを実現したのは、ワークのスペシャルオーダープログラム「シオン」。ワンオフでホイールを作り上げる究極のオーダーシステムだからこそできた、こだわりのホイールである。分かる人にしか分からないさり気ないこだわりが、玄人の成せる技だ。